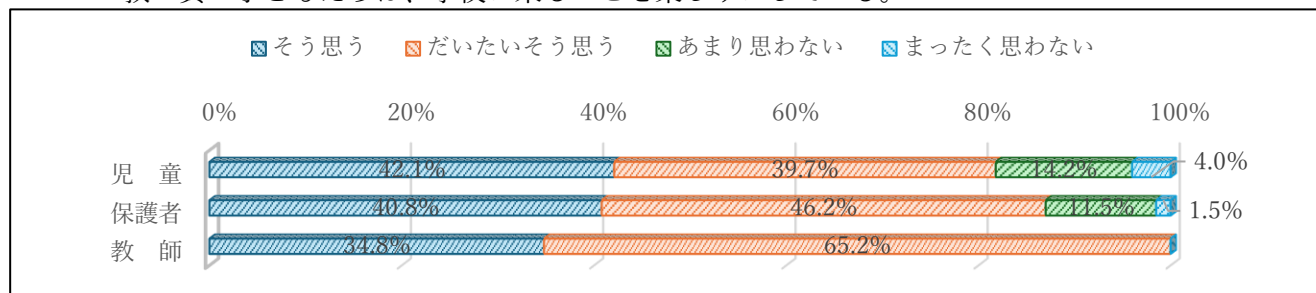


令和7年度 学校評価アンケート分析結果

質問1 児童 学校に行くことが楽しい。

保護者 子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。

教員 子どもたちは、学校に来ることを楽しみにしている。



【学校の取組】

- ・児童に寄り添い一人一人の理解を深め、明るく笑顔で生活できる教育環境づくりに努めた。また、いじめや困り感の早期発見に心がけ、情報共有を密にし、チームで対応して解決に努めた。

【回答の分析】

- ・「そう思う」「だいたいそう思う」の割合が児童・保護者・教師3者とも80%以上である。
- ・「あまり思わない」の割合は、児童・保護者と教師で差がある。

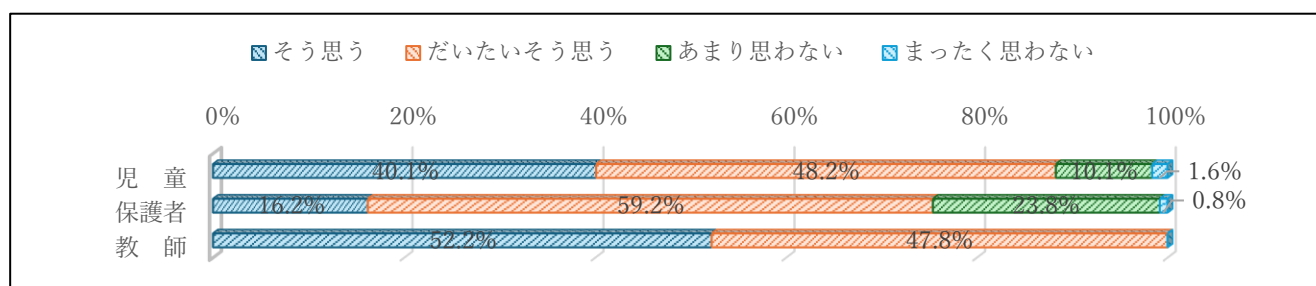
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・今後も楽しい・わかる授業や魅力ある学校行事を行い、児童が楽しく学べる学校になるよう、全職員で協力していく。

質問2 児童 あいさつや返事をきちんとしている。

保護者 子どもたちは、友達、先生や地域の人に挨拶ができています。

教員 友達、先生や地域の人に挨拶ができるように指導している。



【学校の取組】

- ・毎朝の生活安全委員のあいさつ運動や児童会企画のオアシス運動を実施したり、毎日、昼の放送で元気よくあいさつできた班を発表したりして、啓発活動をした。

【回答の分析】

- ・「そう思う」「だいたいそう思う」割合が、3者とも高い数値であるが、児童・教師と、保護者で少し差がある。
- ・校門の前では大きな声であいさつできているが、それ以外の場所ではできていないことが考えられる。

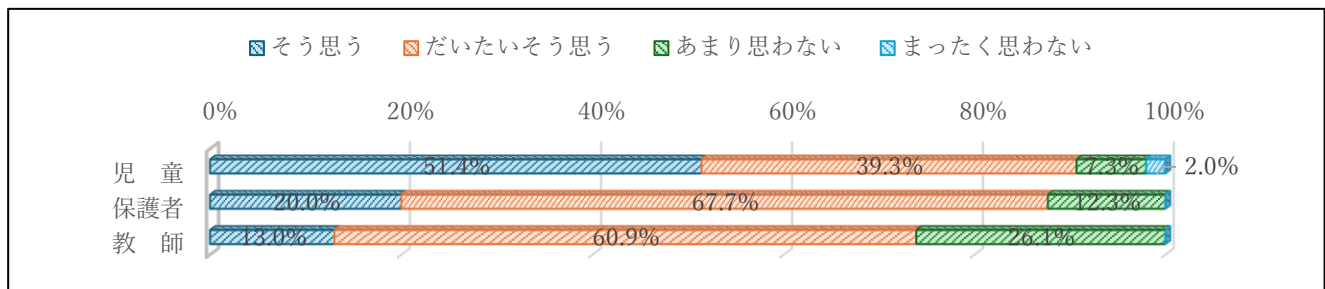
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・学校での啓発活動を継続するとともに、地域の方々へのあいさつもできるように指導していく。
- ・家庭の協力も得ながら、様々な場面で継続的にあいさつできるように指導していく。

質問3 児童 みんなとなかよく協力して生活できている。

保護者 子どもたちは、縦割り活動などを通して、思いやりや協力する心が育ってきている。

教員 子どもたちは、縦割り活動を通して、思いやりや互いに協力する心が育ってきている。



【学校の取組】

・縦割り班や通学団、学級などで、互いに認め合い、協力しあって活動できるようにし、互いの信頼関係を育み、自尊感情や自己肯定感を高めた。

【回答の分析】

・「そう思う」「だいたいそう思う」割合が、児童・保護者は87%以上と高いが、教師は73.9%と少し低い。

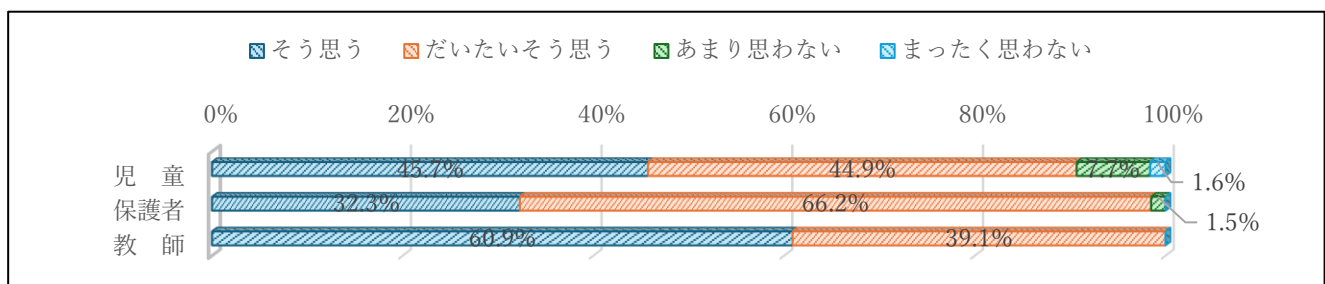
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

・本校の特色でもある縦割り活動をさらに充実させられるよう計画・改善していく。

質問4 児童 生活のきまりを守って生活している。

保護者 学校は、集団生活のきまりに基づいて指導している。

教員 集団生活のきまりに基づいて指導している。



【学校の取組】

・「よい子のやくそく」「生活のきまり」を基に望ましい生活習慣や態度の育成を図った。
 ・学習マナーチェックを毎月実施し、学習規律の定着に努めている。

【回答の分析】

・保護者・教師は「そう思う」「だいたいそう思う」が98%以上と非常に高い数値だった。児童は90.6%とやや低くなるが、3者とも「そう思う」「だいたいそう思う」の数値は高いと言える。

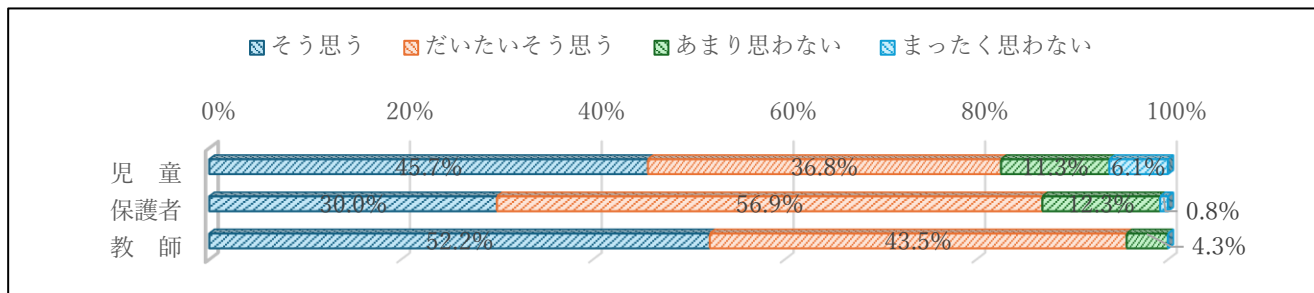
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

・継続して、全校統一した指導ができるようにしていく。

質問5 児童 困ったとき、相談できる先生がいる。

保護者 学校は、子どものことについて連絡・相談しやすい。

教員 保護者との連絡や意思疎通をきちんと図っている。



【学校の取組】

- ・学期に1回教育相談を実施しており、また、相談したい先生と相談できる体制をとっている。
- ・毎月、いじめ・不登校対策委員会を行い、全職員で情報共有を図り、支援体制の確認をした。

【回答の分析】

・教師は4.3%が「あまり思わない」「まったく思わない」と回答しているが、児童・は17.4%、保護者は13.1%おり、少しでも減らし、連絡・相談しやすい学校にしていく必要がある。

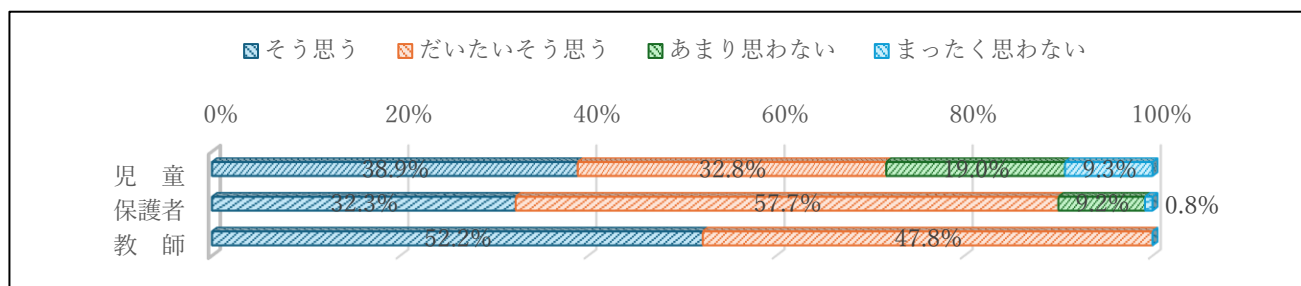
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・いじめの早期発見・対応に努め、児童に寄り添った指導を全校体制で行っていく。
- ・学校で起きた事を丁寧に保護者へ連絡し、信頼を得るように努めていく。

質問6 児童 自分のよいところを知っている。

保護者 学校は、子どもの「よさ」に目を向け、自己肯定感をもたせる指導に努めている。

教員 子どもの「よさ」に目を向け、自己肯定感をもたせる指導に努めている。



【学校の取組】

- ・子どものよさを見つけ、伸ばす指導を心がけている。
- ・校訓を基に児童のすぐれた個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成をめざした指導をしている。

【回答の分析】

・「そう思う」「だいたいそう思う」の割合が、教師が100%、保護者90%となっているが、児童が71.7%となっている。児童が自己肯定感を感じることができるような指導に努めていく必要がある。

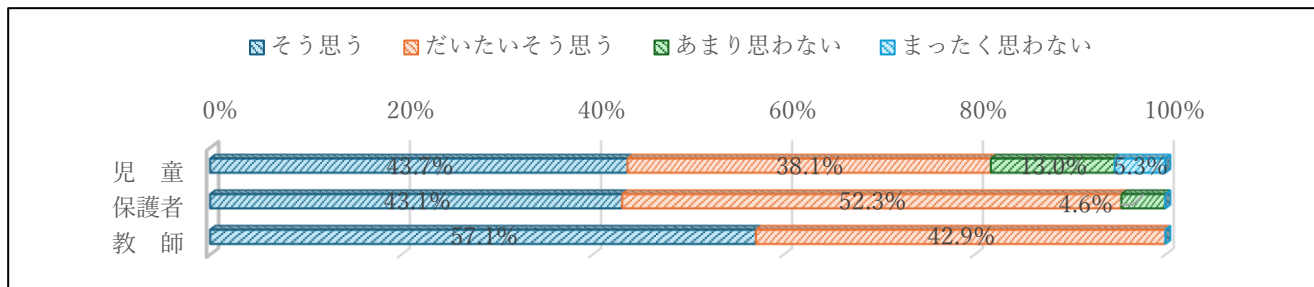
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・様々な場面で、子どものよさを教師から積極的に伝え、自己肯定感を高めていく。

質問7 児童 漢字や計算の練習をがんばっている。

保護者 学校は、漢字や計算など、基礎的な学力の定着に努めている。

教員 漢字や計算など、基礎的な学力の定着に努めている。



【学校の取組】

- ・漢字・計算コンクールを実施し、基礎的な学力の定着に努めている。
- ・朝学や授業で繰り返し学習に取り組み、基礎的な学力の定着を図った。

【回答の分析】

- ・教師・保護者は児童が頑張っていると認めているが、児童の自己評価が低い。

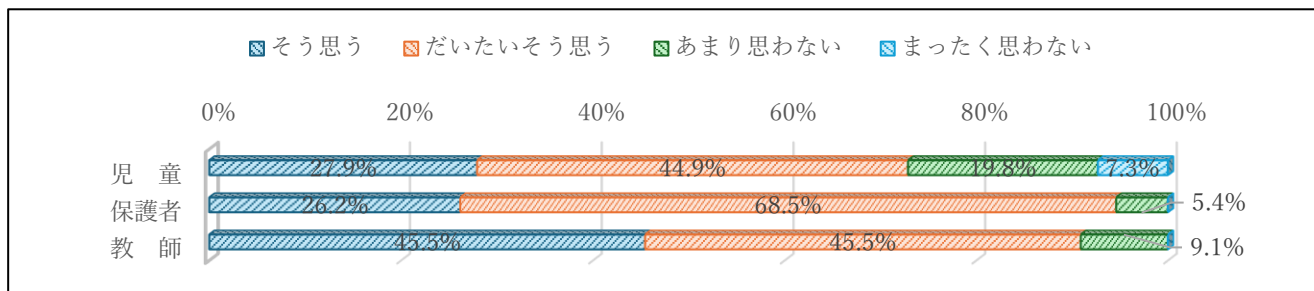
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・基礎的な学力については、今後も繰り返し学習に取り組むことができるようにし、定着を図っていく。

質問8 児童 「話し方かきくけこ」「聞き方あいうえお」を意識して、話し合い活動をしている。

保護者 学校は、話し合い活動を充実させ、学び合う学習指導に努めている。

教員 話し合い活動を充実させ、学び合う学習指導に努めている。



【学校の取組】

- ・各学級に「話し方 かきくけこ」「聞き方 あいうえお」を掲示し、全校体制で行った。
- ・自分の思いや考えを生き生きと表現できる児童の育成をテーマに、伝え合い、考えを深める場を中心とした学習サイクルの展開授業の実践をした。

【回答の分析】

- ・保護者・教師の評価に比べ、児童の評価が低い。指導方法を工夫し、より意識して学習できるように指導していく。

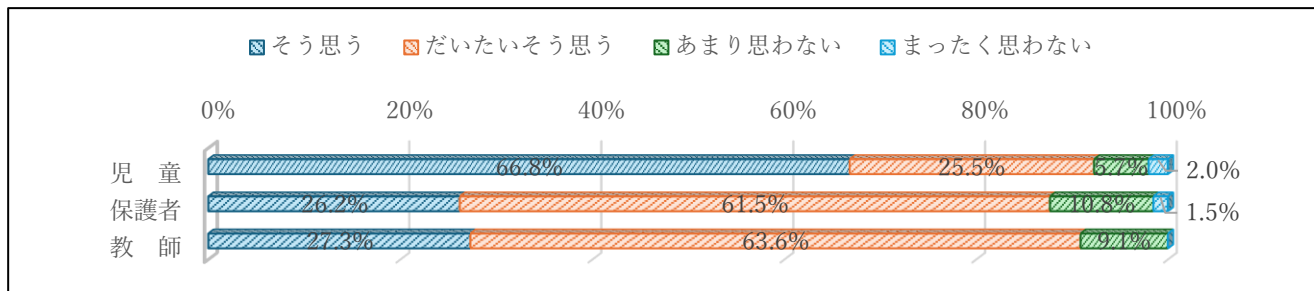
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・「話し方 かきくけこ」「聞き方 あいうえお」の指導を各学級で徹底していく。
- ・伝え合う場の学習サイクルが児童に定着するように学校全体で取り組んでいく。

質問9 児童 タブレット端末を使った授業は楽しい。

保護者 学校は、タブレット端末などICT機器を活用して、よりよい指導ができるよう努めている。

教員 タブレット端末などICT機器を活用して、よりよい指導ができるよう努めている。



【学校の取組】

- ・学習効果が高まるようにICT機器を積極的に活用し、授業を行っている。

【回答の分析】

- ・児童・教師は90%以上、保護者は87.7%と三者とも非常に高い数値であった。

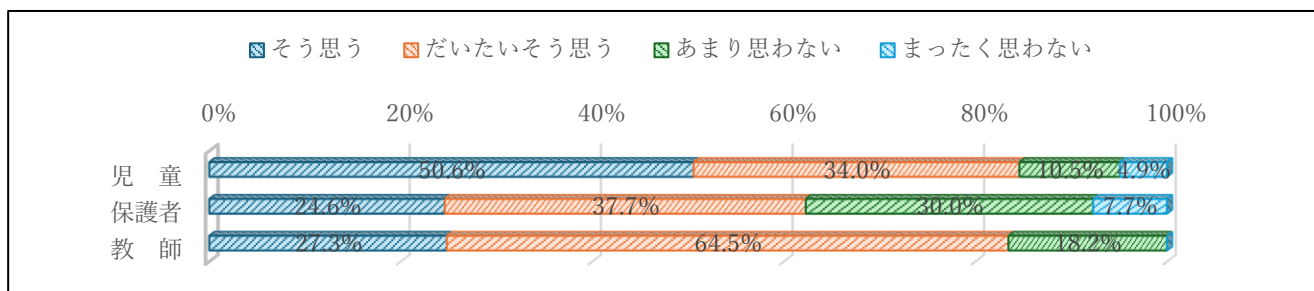
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・授業内で効果的にタブレット端末を使用できるように指導方法の工夫・改善を行っていく。
- ・効果的な活用をしていくとともに、情報モラルの指導も定期的に行い、正しく活用できるようにしていく。

質問10 児童 読書や読み聞かせが好きだ。

保護者 子どもは、読書をしたり読み聞かせを聞いたりするのが好きである。

教員 子どもたちは、読書をしたり読み聞かせを聞いたりするのが好きである。



【学校の取組】

- ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせを実施している。
- ・読書週間を設定し、スタンプ集め、読書郵便、W貸し出し、親子読書を実施した。

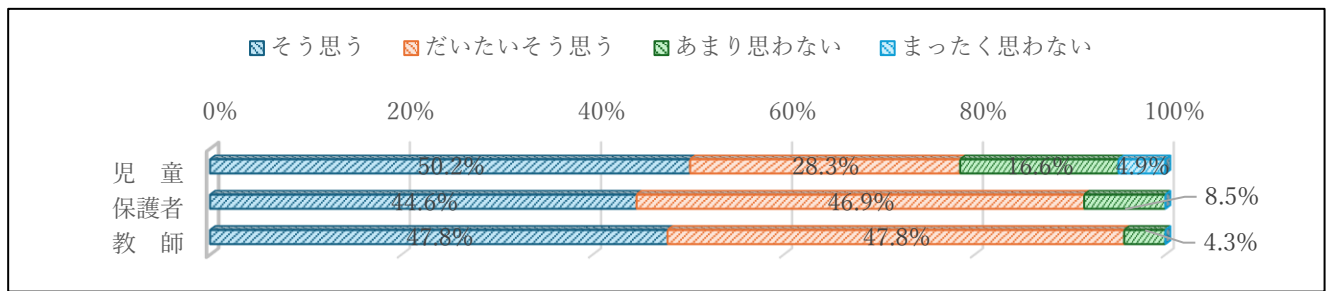
【回答の分析】

- ・家庭で本を読むことが少ないのか保護者の評価が低い。

【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・読書活動の啓発を図書委員会中心に行っていく。また、校内だけではなく家庭での読書に親しむ習慣を家庭と協力して身に付けられるような活動も必要である。

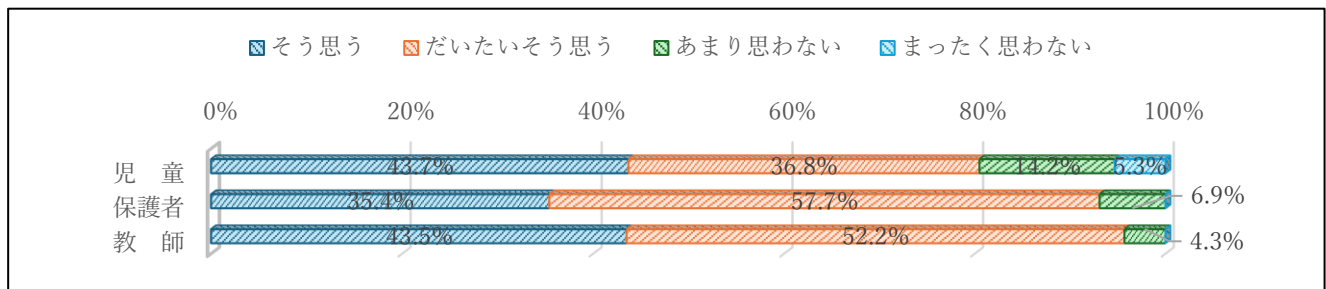
質問 1 1 児 童 体力づくり・一輪車、なわとび、外遊びなどに進んで取り組んでいる。
 保護者 学校は、子どもたちの体力増進（一輪車・なわとび等）に努めている。
 教 員 学校は、子どもたちの体力増進（一輪車・なわとび等）に努めている。



【学校の取組】
 ・毎週木曜日を一輪車運動の日と決めて休み時間を過ごしている。・今年度も親子一輪車教室を実施した。
 ・なわとび集会を実施し、積極的になわとびに取り組んだ。
 【回答の分析】
 ・保護者・教師は両者とも「そう思う」「だいたいそう思う」が90%以上であるが、児童は78.5%と低い。

【学校運営協議会委員及び学校の見解】
 ・一輪車運動をさらに充実させられるように一輪車認定集会等の見直しを進めていく必要がある。

質問 1 2 児 童 早寝・早起き・朝ごはんを意識して生活している。
 保護者 学校は、子どもたちの健康保持（早寝・早起き・朝ごはんの推奨）に努めている。
 教 員 学校は、子どもたちの健康保持（早寝・早起き・朝ごはんの推奨）に努めている。



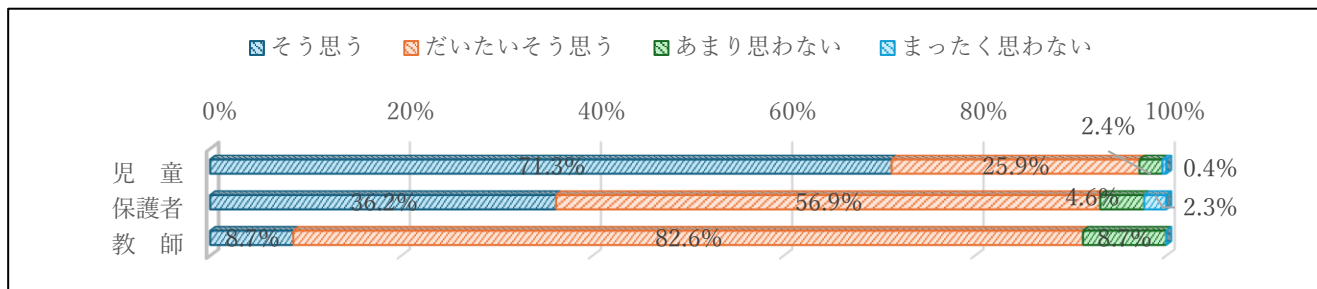
【学校の取組】
 ・生活チェックカードを活用し、基本的な生活習慣の意識付けを行った。また、学校保健委員会で児童の健康についての課題や改善方法について、学校・保護者と意見交換をしたり、校医から指導をいただいたりした。
 【回答の分析】
 ・保護者・教師は90%以上が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答し、児童は少し低く約80%となった。

【学校運営協議会委員及び学校の見解】
 ・家庭と連携し、児童の健康が保持増進させられるようにしていく。

質問 1 3 児 童 交通ルールを守って、安全に登下校している。

保護者 子どもたちは、交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校している。

教 員 子どもたちは、交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校している。



【学校の取組】

- ・毎年3年生を対象に警察署の方による交通安全教室を開催し、自転車の乗り方指導を行っている。
- ・下校時に警察官とコノハ警部による交通安全の啓発を行った。

【回答の分析】

- ・3者とも90%以上が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した。

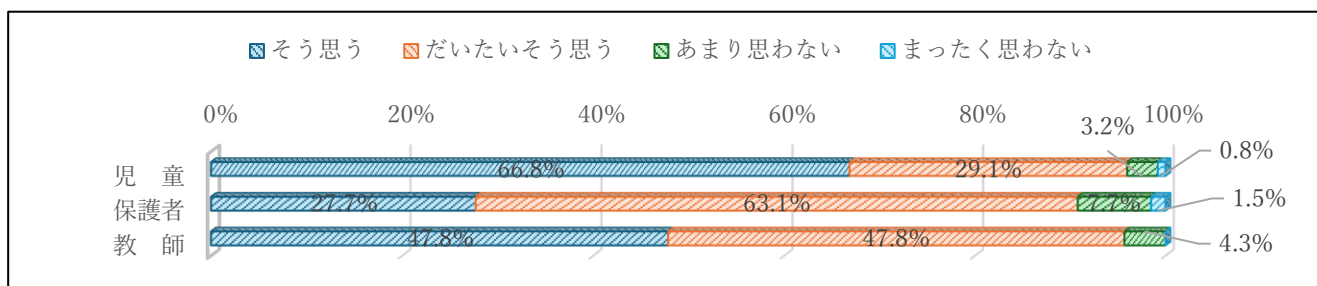
【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・見守り隊や保護者の方による見守り活動のおかげで、登下校中の交通時事故は本年度もなく登下校できている。

質問 1 4 児 童 地震や火事が起きたときや、不審者がきたとき、どうしたらよいかわかる。

保護者 学校は、避難訓練や不審者対策など緊急時に向けた取組を進めている。

教 員 学校は、避難訓練や不審者対策など、緊急時に向けた取組を進めている。



【学校の取組】

- ・年間3回の避難訓練を実施し、煙体験ハウスや水消火器による消火訓練も実施している。
- ・不審者対応訓練の際には、各教室にバリケードを作る訓練を行っている。

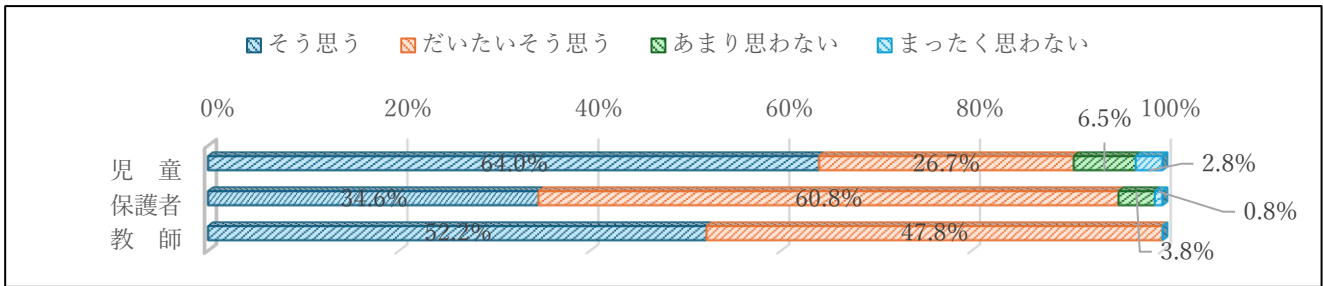
【回答の分析】

- ・3者とも「そう思う」「だいたいそう思う」との回答は90%以上であった。

【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・実践的な訓練を次年度も継続して行い、自分の身を守る必要性への意識向上を図るとともに、教師が児童の安全確保をするために必要な対応を訓練し、学校全体の安全への意識を高めたい。

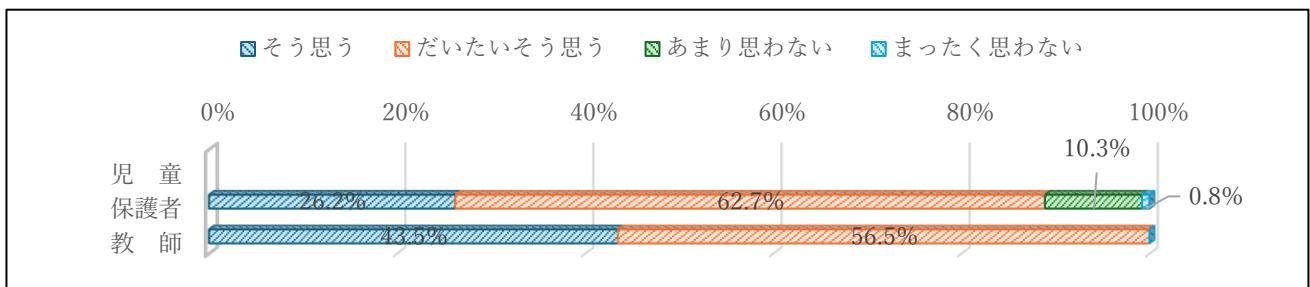
質問15 児童 学校でけがをしたり、調子が悪くなったりしたとき、先生たちはすぐに対応してくれる。
 保護者 学校でけがをしたり、体調が悪くなったりしたときの対応が適切である。
 教員 学校でけがをしたり、体調が悪くなったりしたときの対応が適切である。



【学校の取組】
 ・児童がけがをした際には、必ず養護教諭へ報告し、処置を受けるようにしている。また、大きなけがや頭部のけがの場合は複数の職員で確認をし、必要に応じて病院へ搬送している。
 ・けがをした場合は、必ず保護者へ連絡するようにしている。
【回答の分析】
 ・3者とも90%以上が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。

【学校運営協議会委員及び学校の見解】
 ・けが起きないように教育委員会と連携して学校環境を整えていく。
 ・けが発生時には、速やかに対処できるように報連相を徹底する。

質問16 児童
 保護者 たよりやホームページなどで、子どもたちの学校での活動状況が、家庭によく伝わっている。
 教員 学校は、たよりやホームページなどで、子どもたちの学校での活動状況を、家庭によく伝えている。



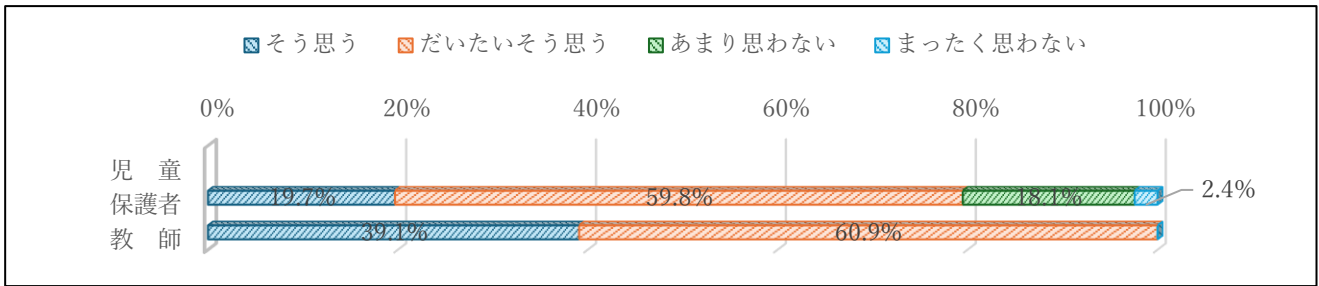
【学校の取組】
 ・各学年、学校での様子をホームページに毎週掲載できるようにしている。
 ・宿泊的行事の際には、現地から児童の様子をホームページに掲載をした。
【回答の分析】
 ・「あまり思わない」と回答している保護者が10.3%いる。

【学校運営協議会委員及び学校の見解】
 ・引き続き、ホームページで積極的に学校での様子を伝えていく。

質問17 児童

保護者 学校は、登下校の見守りやボランティア活動の呼びかけなど、地域・保護者との連携に努めている。

教員 学校は、登下校の見守りやボランティア活動の呼びかけなど、地域・保護者との連携に努めている。



【学校の取組】

- ・子どもサポーターによる図書の新着活動や授業指導支援を行った。
- ・安心クラブによる登下校の見守り、読み聞かせボランティアや除草ボランティアにきていただいた。

【回答の分析】

- ・「あまり思わない」と回答している保護者が18.1%おり、教師と少し差がある。

【学校運営協議会委員及び学校の見解】

- ・ボランティアにきていただいていることをホームページで発信し、多くの保護者に知らせる。
- ・今年度は、感謝の会の対象範囲を拡大し、児童にも多くのボランティアの方がいることを周知させる。